

「天水」テーマに魅力発信

デザイン会議
とくしま
プレイベントに300人

大塚美術館

二〇〇六年秋に開かれる「第二十八回日本文化デザイン会議06 in とくしま」の開催一年前を記念し十四日、鳴門市の大塚国際美術館でトークショー「大塚国際美術館システィーナホールトーク・新しい徳島イメージの創造と日本文化デザイン会議」があった。詰め掛けた約三百人を前に飯泉嘉門知事らが、同会議のテーマ「天水」と、会期（十月十三～十五日）を発表した。

トークショーでは、飯泉知事が司会をし、芸術家日比野克彦さん、異文化コミュニケーションターマリ・クリステイーヌさん、建築家團紀彦さん、音楽家サエキけんぞうさんの四人が顔をそろえた。

席上、同会議徳島実行委員の議長を務めるマリさんが、テーマを「天水」と決めた理由を「水の恵みの豊かさや阿波踊りなど数多くのキーワードを集約した」などと説明。徳島について「人情豊か」（マリさん）、「流れ



徳島の文化をテーマに繰り広げられた日本文化デザイン会議プレイベントのトークショー。左からサエキさん、團さん、マリさん、日比野さん、飯泉知事＝鳴門市内の大塚国際美術館システィーナホール

る新町川の美しさや阿波踊りの情熱」（サエキさん）などと印象を語った。

続いて、今の徳島には「外国への情報発信力」（マリさん）、「もっと地域らしさを出すこと」（日比野さん）などが必

要だと注文した。飯泉知事は「第九など世界に発信できるものは数多い。会議に向け、文化立県徳島をアピールし、雰囲気

を盛り上げたい」と締めくくった。同会議は各界で活躍する文化人が地方に集ま

り、講演や対談などを通じて情報発信するイベント。一九八〇年から東京、京都などで開かれており、四国では徳島が初の開催。